



僕は
星奈しか
要らない
3

■小鷹の部屋

こうして星奈と二人だけの時間が取れるのはヶ月ぶりだった。
試験最終日の放課後、久しぶりの部活に行こうかと思っていた俺を
星奈が簡しように呼び止めた。
一緒に部室に行こうと俺が誘った瞬間から星奈の機嫌が目に見えて悪くなり、なんとが
機嫌をとろうと頑張ったのだが「あんたの部屋行く」とほそりとつぶやいた以降沈黙したままだ。
現在俺のベッドに二人して懸掛けてはいるものの非常に気まずい時間が経っている……

「……」

「んと……何が言ったか？」

星奈の声が聞こえた気がして話しかけてみる。

「あ、あんたは……その……」

何ををじっと、こらえるようにスカートを握り締めながらうつぶしにしている。

珍しく躊躇している星奈の言葉をじっと待つ

な、なんか別れ前の恋人みたいじゃね？

とたんに軽口でも叩いて沈黙を吹き飛ばしたくなるがそんな雰囲気でもない。

どれほど重大な話かと緊張して心臓が早鐘を打つ。

やへえ……すげえ緊張してる

「あたしと……一緒に居たくないの？」

「へ？」

予想外の言葉に面食らう俺。

「ど、どうなのよ……は、はやく答えなさいよ！」

「一緒に居たいよ、が——彼だけだし」

「つ！——はが……」

喋るようになったものの、まだうつぶしにたま顔は見せてくれない。

「星奈？」

心配になって思わず覗き込むと——星奈も動いて顔をそらす。

ちょっと面白くなって顔を迫ってみると、星奈も顔を見せないように顔を揺る。

一瞬……

綺麗に流れるフロントの奥にキョツと閉じられた目から浮かぶ涙が見えた。

俺は思わずベッドに押し倒し星奈に覆いかぶさる。

それでも両腕で顔を隠し、かたくなに表情を見せない星奈。

「——星奈」

どう声をかけていいのか分からない……

「……んっ……うう——だって……だって最近全然一緒に居られないし

、二人っきりの時も勉強ばつがだし……ぎゅって抱きしめてくれないし……

うう……ぐずっ……キスも……してこないし——

——最初の頃は二人っきりになった途端に馴れ掛かってくるのに——うつく……

もうあたし罅らないのになって……うううううう……不登で一杯になって——はがっ……はがあ」

瞳一杯に涙を溜めながら、にらんでくる星奈にそつとキスをする。

「んっ!!」

怒って俺の背中をトクトク叩く星奈。

そつとキスを終えると——

「あつ」

物足りない表情が垣間見えたあと、さっきのふくれっ面に戻り目をそらす。

「不登なら不登って言ってくれ、分からんのだ」

「…………——不登……だつたの」

「ごめん」

俺はもう一度キスする。

「んっ」

星奈の手が今度は俺の背中に回されしがみついてくる。

あまりの可愛らしいしぐさに星奈の柔らかな唇を舌で愛撫する。

ぶるぶるしたモチモチ感触を楽しんでると……中から遠慮がちに舌を差し出してくる。

「んっ、んんうっ」

唇と違った芯のある柔らかさを堪能するべく、星奈の口を舌でこじ開けながら奥へ奥へとぬめり込ませる。

「んっ……ちゅっ……ちゅっ……んんっ……」

舌をからませ合う事で呼吸がいつそう荒くなる。
しがみついた星奈の指が俺の背中に喰い込む。
舌の激しさが加速し、星奈の濡んだ瞳が熱を帯びる。
肺の苦しさが限界を超えてようやく俺は星奈から口を離す。

「んはっ!ハッ!——はっ、はっ、はっ」

興奮してうつろになった星奈の目が俺をまっすぐ見つめる。
俺は再びついばむように軽くキスしたあと、星奈の口から首筋にかけてあふれた唾液を丹念に舌で拭き取る。
「ひゃうんっ、んはっ……だっ——だめっ!首はダメだっはっ」
とだん暴れる星奈をベッドに押し付けながら耳の後ろをぞっと、触れるが触れないかのラインで愛撫し続ける。

「んっんんっ!あ……あっ……い……や、ソクソク……きちゃってる……」

鳥肌あわ立つ星奈の首すじも指先でぞっと愛撫を重ねる。

たまらずしがみついてくる星奈。

同時に愛撫をやめる俺。

「えあ?」

ほけつとした顔で俺をながめてくる。

おねだりし、そうになった自分に気がつき顔が真っ赤になる星奈。
星奈が感じている事に気分を良くした俺は用意しておいた道具を取りに行く。

「星奈さ、電気マッサージ器使ってみないって言ってたよな」

「え……う、うん——言っただけど……」

取り出した俺は星奈に見えるように差し出す。

「あ!それってもしがして「fist」のファンディスクでブラックセバイーを倒したあとで、ボスの居場所を吐かせる時に使った電マじゃない?」

「……—あ、いや、そうなんだ……?」

正直知らん。

「絶対そうよっ、いや〜ん、ブラックセバイーちゃんが凍として抵抗してた所からアへ顔になってイキじゃくるまでが濃い濃密な文なのよ!

あ〜ん、もう何でこのゲーム声優あててないのよって怒りたくなるけどアしだけテキストあると録音にも時間——」

「いやっ!いや……まあ……まあ……あとで……な?あとで聞くから」

「そ……そうね——ごめん」

「で、使うから」

「ん?——」

「だから、俺も星奈のイキじゃくるところ見たいから使う」

鼻から息を出し冷やみに見下した。

「はっ……バッカねー、普通の人がそんなのでイクわけないじゃない、いちいちイッちゃってたらマッサージ屋なんか濃い事になっちゃうじゃない」

「まあ、いいじゃん、お試してさ。んで、そのキャラはどうされてイクんだ?」

「別に?愛撫するのを手や舌じゃなくて電マでしてただけよ」

「ぞっが、じゃ——」

フブフブフブフブ

スイッチを入れ星奈の首筋に近づける。

「ひえっ!」

一度離れたあと、とほけながら聞いてみる。

「どうした?」





ゴゴゴゴゴ

もうダメえ
普通のっ

気持ちよく
してやるな

普通のHしたいよう

うおおおっ!!
すっ

すげえ絞まるっ!





いやあっ…

…もういやああっ…

……またいきゆうっ
イツちやうよおおッ

イツちやううう

うううっ!!



星奈
射精るぞっ!!

ひあう♡

もうー
もうゆるしてええ……



じゃあ

星奈が
気持ちよくしてよ



うう…あたしのヌルヌルと
小鷹のせー…えきが…んちゅ

ナカで
混ぜって

ひゅこい…えっちな
味…んふするん

ン…♡
だけど…

小麗のせいでこんな感じ…ツン♥
日な身体になっちゃったんだからねっ

あんな…可愛いわねっ…♥
小麗のせいでこんな感じ…♥
小麗の…♥
あんな…可愛いわねっ…♥
小麗の…♥

あ…ん…ん…♥

あ…ん…ん…♥

あ…ん…ん…♥

あ…ん…ん…♥

あ…ん…ん…♥
あ…ん…ん…♥



ひあう!!ナカで
出てるっ…ンッ♡

奥にいつぱい
出されちやってるっ!!

フツフツ
フツフツ
フツフツ

フツフツ
フツフツ

フツフツ
フツフツ
フツフツ
フツフツ

フツフツ
フツフツ
フツフツ

星奈……
すげえ気持ちよかった……

あ……あっ♡
あたしも……もう下半身震持っちゃった……

ずっと一緒にいような

……うんっ♡

おしなごなの
おふんっ……

このおふんっ……おふんっ……おふんっ……
おふんっ……おふんっ……おふんっ……

おふんっ……おふんっ……♡

I need
only Sena ♡



I ♡
SENA

このにちわわ (・ω・) ♪
ななせ めろちです。
せな本も3冊めになりました。
カードです。...せな—!!!
本を見て下さる方のおかげで^{スネ}
3冊目までかんぱってイ作りが
できました。アリガト—!!!

せなのアルファベット表記
今回は SENNA にしてみました。
今までは 英語風
Senna にしていましたか
わかりにくいよう! ってご意見
があったので。ごせとうちの
せなも ラブ です so much

ななせ



……うん

星奈のおっぱい

pink

pink

pink

…おっぱい

揉んでるのよ

気持ちよすぎて

止まらないんだって



そ

そりゃ

完璧な美少女の
あたしの胸が
触れて嬉しいのは
分かるけど

このままだと

思っただけ……

あたし……

pink

そうだな

そろそろ小鳩も帰ってくる時間だし

え!

もうそんな時間なの!?

もっ...もう終わろっ

やだっ

お

お帰り小鳩

ひえっ!

小鳩ちゃん違うのっ!

これはっ

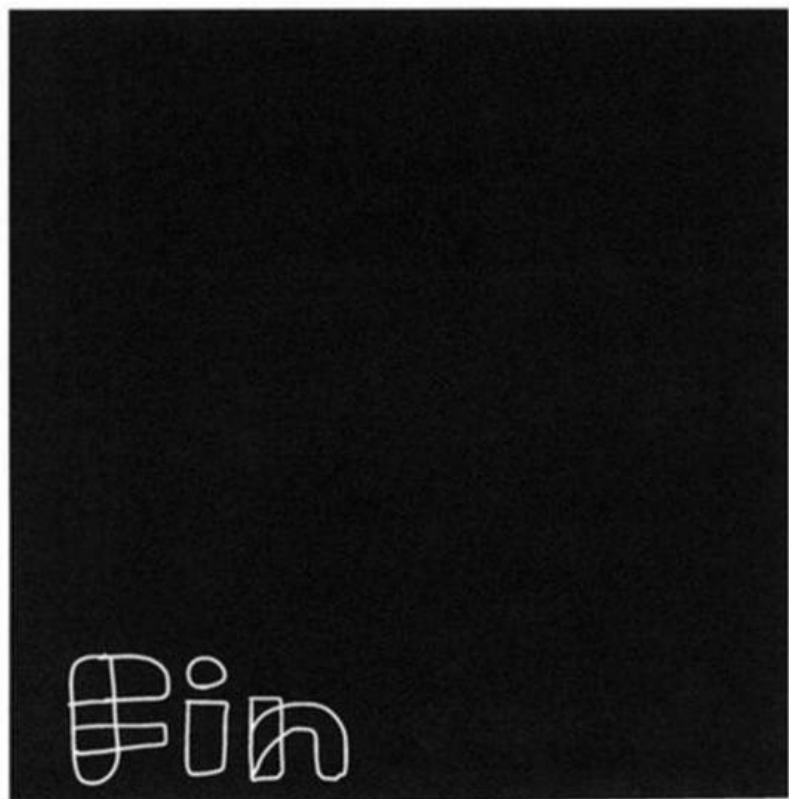
すごい締め付けっ...


うおっ...

いやッ

いやああっ...
見ないでッ
だめだめだめえ







こんにちは! ななせ めるちです。
はがないの最新刊がもうすぐ発売ですね!
ちようちよう楽しみです!!

5月には富士見書房さまから、
ななせが挿絵を担当させていただいて
おいまあへしん!の2巻も発売になります。
新キャラも登場してまあまあ
うづこめに突入していきまあー!

どうぞよろしくお願いたします!!

めるちーず 16

僕は星奈しが奪らない3

発行 生クリームびより
発行人 ななせ めるち

2011年 5月発行
印刷 コーシン出版さま

<http://naname!blog77.fc2.com/>

禁無断転載・禁無断複製

18歳未満の方の閲覧はご遠慮ください

免責

本書の内容に関し本書発行人は
いかなる保証もいたしません。

